

## 地域のための技術開発

取締役副社長  
立地環境本部長

太田四郎

Shiro Ota  
Executive Vice President,  
Director of Plant Siting & Environmental Affairs Bureau

都市集中化の波は依然として旺盛である。人々は生活の利便性と快適さを求めて都市に集まり、ますます都市圏の活性化が進んでいる。安定した社会生活を維持するためには、都市集中化にともなう発生する様々な課題を解決していかなければならない。

このような社会の動きの中で、電力会社としての社会的使命を達成するための緊急かつ最大の課題は、電力エネルギーの安定供給という観点に立脚した電源の確保と、エネルギーの有効利用に関する技術開発であろう。

最近、電源立地のことを地域の方々と話す機会が多いなかで、特に耳にするのが地方と都市との役割分担が転換期に来たという若い人達の声である。21世紀の到来を直前にして、これからの都市と地方の役割分担を、人々の生きがいと社会全体の調和発展のバランスの中で、文明論として大いに語り合わなければならない時ではないかと思うこの頃である。

社会全体の活性化と振興を考えたとき、地方は都市のために何をもって貢献し都市は地方のために何をすべきか、それぞれの果たすべき役割を話し合い分担し合うべき時ではなからうか。

近年、炭酸ガスによる地球温暖化の問題がクローズアップされてきており、都市においても地方においてもエネルギーの効率的利用を真剣に考えるべき時を迎えている。都市においてはエネルギーを有効に利用し生産性の向上をはかり、地方は一次産業製品を効率的に生産し都会に供給するなど、共存共栄の役割を相互に演じなければならないと思う。

すべての地域における社会活動の源はエネルギーである。経済活動の発展や生活様式の変化を反映して、



エネルギーの使用量は年々増加の傾向を示している。エネルギー基幹産業の一翼を担う当社は地域との共存共栄をはかり、安全で便利な電気エネルギーを安定供給することは最も重要な役割である。

現在、エネルギーの供給にともなう技術的課題は、地球温暖化対策、環境対策など多くある。それを乗り越えるのは容易ではない。しかし、これまでも電力の技術者は時代時代の困難な問題に積極的に取り組み、素晴らしい成果を上げてきた。硫黄酸化物や窒素酸化物の除去技術の開発などは着手した当初、実用化の見通しは悲観的であったが努力と研さんを重ね見事に完成させた実績を有している。

また、地域に密着した技術的諸課題への取り組みとして、都市においては排熱などの未利用エネルギー利用の研究、地方ではエネルギーの有効利用による一次産業の生産性の向上研究、また漁業では藻場の育成・漁場の造成改善などの基盤整備の研究等あらゆる分野での技術開発を行っている。

さらに、21世紀を目指した地球環境保全のための炭酸ガス固定化技術の開発や自然エネルギーを利用した新発電方式の実用化研究は大いに期待される場所である。このように広く社会に貢献するなかから地域の信頼を得るところに電力会社の技術研究所としての役割がある。

そのためには自らの研究成果を積極的にPRすることは勿論のこと、地域のニーズに合致した研究開発を進め、ともに発展するという哲学を持たねばならないのではないだろうか。これからの技術研究は社会性がありと思うのである。